

# 無明の酔い

最近、加齢による体の不具合や体力の衰えを感じていま

最近、右上の歯ぐき付近に痛みを感じて「虫歯かな」と思い歯医者さんに行ったら、「耳鼻科に行ってみてください」と言われました。さっそく耳鼻科に行って診察してもらったと副鼻腔炎でした。歯ぐき付近の痛みは副鼻腔炎によるものでした。

次に、十七の夏に歯の治療を受けて以来、四十五年ほど歯医者さんに縁がなかったのですが、歯ぐきの痛みを縁に虫歯の治療をしました。

さらに、眼鏡をかけてずいぶんになりますが、最近では眼鏡が合わなくなり、眼鏡を作替えることが多々あります。

今月で六十三歳になりますので、このような体になるのは当然ですね。

もう一つ、衰えを感じるこ

とがあります。アルコールが弱くなったなと、お酒の縁があるたびに思います。

「肝機能が他の人に比べると劣っていますね」と二十代のころにお医者さんから指摘を受けました。そのため飲みすぎると二日酔いを結構しました。頭痛が痛くなることはありませんでした。ところが最近では頭痛が痛くなることよくあります。そんな酒を飲んだ後の頭痛対策として近頃「アルピタン」という薬を服用し、この薬のおかげで助かっています。

この「酔い」と「薬」という言葉のセットを見聞きすると親鸞聖人の『御消息』のお言葉を思い出します。

『御消息』二に

もとは無明の酒に酔ひて、貪欲・瞋恚・愚痴の三毒をのみ好みめしあうて候ひつ

るに、仏のちかひをききはじめしより、無明の酔ひもやうやうすこしづつさめ、三毒をもすこしづつ好まずして、阿彌陀仏の薬つねに好みめす身となりておはしましあうて候ふぞかし。

と書かれています。現代語に訳すと

みなさんは、以前は無明の酒に酔って、貪欲・瞋恚・愚痴の三毒ばかりを好んでおられました。阿彌陀仏の本願を聞き始めてから、無明の酔いも次第に醒め、少しづつ三毒も好まないようになり、阿彌陀仏の薬を常に好むようになっておられるのです。

となります。

無明の酒に酔って、貪りや怒り、愚かさの三毒の煩惱ばかりの日暮しをしていることに気づかない身であります。そんな私を追いかけまわして「我にまかせよ、必ず救う」と我にまかせよ、必ず救う」と

呼び続けてくださる阿彌陀さまのお慈悲、ご本願に出遇うと、「貪り・怒り、愚かさ」の三毒の煩惱の日暮しが少しづつ抑えられていき、ご本願のお慈悲に支えられた毎日を送るようになるとお示しくださいます。

この御消息に親鸞聖人は「薬があるから好きこのんで毒をのみなさい」というようなことはあってはならないともお示しくださっています。

「アルピタン」という薬があるからといって無節操に酒を飲んではいけませんよ」と聞かせていただきますが、それがやめられないこの身です。

「欲も多く、いかり、はらだち、そねみ、ねたむ心多く暇なくして臨終の一念に至るまで止まらず、消えず、絶えず」と無明煩惱から離れられない身ですが、少しづつ、少しづつ三毒の煩惱を好まず、阿彌陀さまの薬（ご本願、お慈悲）をつねに好む身になりたいなと思っております。加齢による体力老化に悩まされながらの気づきでした。

# 法語の世界

《原文》

蓮如上人順誓に對し仰せられ候ふ。法敬とわれとは兄弟よと仰せられ候ふ。法敬申され候ふ。これは冥加もなき御ことと申され候ふ。蓮如上人仰せられ候ふ。信をえつれば、さきに生るるものは兄、後に生るるものは弟よ。法敬とは兄弟よと仰せられ候ふ。「仏恩を一同にうれば、信心一致のうへは四海みな兄弟」(論註・下巻二二〇)といへり。

《蓮如上人御一代記聞書》二百四十六

《現代語訳》

蓮如上人が法敬坊順誓に、「法敬と私とは兄弟である」と仰せになりました。法敬坊が、「これはもつたいない、恐れ多いことでございます」と申しあげると、上人は「信心を得たなら、先に浄土に生れるものは兄、後に生れるものは弟である」と仰せになりました。これは、『往生論註』の「仏恩を等しくいただくものであるから、同じ信心を得る。その上は世界中のだれもがみな兄弟である」というお示しのおことろです。

《現代語訳》

冥加もなき…恐れ多い。もつたいない。えつれば…得たなら。一同に…等しく。同じように。四海…全世界をいう。

## 二〇二〇年春季彼岸会法要中止のお知らせ

先月の寺報(二月号)でお知らせしておりました二〇二〇年春季彼岸会法要について、新型コロナウイルスの感染拡大を防止・抑制するため中止することといたしました。

法縁をお待ちしておられた方もいらっしゃるかと思いますがお許し下さい。彼岸会のご縁についてはそれぞれご自宅の仏壇前にておつとめください。

## 法事について

恩講の年忌のご参りの際に本年のご連絡をいただきありがとうございます。その際によく言われるのが「命日より早くても法事をつとめていいですよね。お参りするのは命日より後になってもいいですよ。法事をつとめないはいけません。後になっても心配されなくていいです。また、祥月命日は多数あります。ケースが本年は早目に連絡して日を決めたい。連絡を立ててお参りしたい。日程を立ててお参りしたい。日程を立ててお参りしたい。」